種として昭和の始め頃より改良さ

培が行われている。かんらんは品 を主とし、その他に球根花卉の栽 〇〇一坪にはカーネーションと菊

一多いので、花が甘藍にかわって

一栽培されるようになるだろうとい

彦島は方城町と同じような赤

れた彦島夏まき甘藍が栽培されて

いる。この品種は農林省農産物種

苗登録品種となり、

昭和二十八年

襲土で葱の栽培が多く、一年中を

安岡の横野地区は毎岸の沖積砂

されているという。

り十一月七日まで

その概要をお知らせする 員と共に視察する機会を得たので

んらんの栽培である。温室約四、

れ

カン

5

農

県農業改良普及員

長

尾

干

代

喜

帯で経営の主体は温室の花とか

栽培面積が少くなった。露地栽培

の葱種をまくという。その他の

ションが点々と栽

優秀な品種がつぎつぎに発表され

長岡交配夏まき理想甘藍などの

期間十一月一日よ

の園芸地帯を方城町農協の園芸部

される優秀な品種であるが、近年 十二月から翌年四月上旬まで出

十四日、下関市の意島と安岡地区

蔬菜の先進地を視察して=-

八月上旬までに夏まきとして一

日位から二十三回間引きとして小

倉

石

郡

公 連

会

長

、申請のできる

一、申請資格 の昭和十四年十二月 必ず申請し 学の選挙権がありま一一月二十日の衆院 までの間に生れた

ひ補欠選挙人名簿に登 衆議院議員総選挙に使わ の申請をする必要があり れる選挙人名簿は昨年 ります) 管理委員会事務局にあ 一十日に確定の名簿

ほ う 公 民 時 報

12 No. 昭和35年11月1日 隔月発行 発 行 所 福岡県田川郡方城町 発 行 人

## 民 (館) れた研究課題ととっ組

いて明快適切な研究発表があり当 変広い併も徹底しない仕事である 分館の計画的な行事及び予算は全 諸問題研究中社会教育は間口の大 郡の分館長に感銘を与えました。 申 合

世

青少年の不良化防止の一環として

ンドに於て挙行されました。参加

ムは二十三絶好の運動日

防

犯

")

フ

1

ボ

ル

会

催

3 大

る

大会は十月二十六日午前八時よ

当日の成績は次の通りであります 恵まれ無事終了致しました。

町村相互の連撃が不十分であると 各町村の新生活運動推進の隘路が いうことから次の点を申し合わせ

など)の改善を推進する

準々決勝

迫

迫 Œ

町

治下 弁

5 迫

ー冠婚葬祭を簡素化する。 2年中行事(初盆、七五三、

から何かの目的を定め之を徹底せ

しむべきであるとの意見が強ま

昭和三十五年九月二十七日 田川郡公民分館役職員研 昭和35年度防犯ソフト

準決勝

西東

古 古

石区手門門村

### 分館役職 員 研 修会開催 さる

印刷所 冷牟田印刷合資会社 (活) 動 郡内各分館長一五〇名 月二十七日赤池八区分 館で開催されました。 分館役職員研修会は九

# 二十五年度の予算につ一成に努力するよう誓いました。

倉石郡公民館連絡協議 会長県より表彰さる

区四 戦勝優

報

会に今後益々社会教育に を受けました。これを機 館大会に於て栄ある表彰 進のため努力されていま したが、今回福岡県公民 連会長として社会教育 倉石館長は長年田川郡公 精進あらんことを期待

田川郡公連主事会 交

御祝の辞と致します。

和三十五年十月三日









3交通秩序の確立

4交通環境の整備



準々決勝

見 満 ケ 寺 珠 にこの交通安全運動が行われます

华 四 区 勝

10後谷

ことは主ことに意義深いものがあ 2交通道徳の高揚 本県におきましては ると思われます

ることとなっていますがこの時期 もいうべき道路
交通法も施行され 急務となっているところでありま 交通事故の防止はいよいよ焦眉 交通事故も又増加の一途を辿り して、さらに近くが通の基本法と 諸点に重点をおき、それぞれの

町ぐるみ一体となり正しく明るい 父通安全の実現に努めましょう。 則を推進することになっていま 燃関を通じて県民運動として本運

保険法、緊急失業対策 法等を定め、各人の能 は、職業安定法、失業 である。かくして国家 力に応じた職業の斡旋

対策などの社会政策を

業者の救済事業を行っ 図るための保険及び失 講ずる義務を負うもの 失業者の生活安定を

を自由、無制限に任せ 活の資料を求める活動 労働すなわち人間生 働

げるような法律を制定すること 規定に基づき国民の労働権を妨 満足させるためであり、その満 って、財貨獲得の目的は慾望を を得ず、かつ、職業紹介、失業 務を負う」(第二七条一項)と 保障する前提として、「すべて そこで憲法は、国民の生存権を あるということができ、労働な 活を支える最も根本的な手段で 持である。従って労働は人間生 足の中心をなすものは生活の維 の国民は勤労の権利を有し、義 と言っても過言ではなかろう。 定めたのである。<br />
国家は、<br />
この して人間の生存はありえない

フ

がら、理由もなく解雇されると 障している。(憲法第二十八条) 労働条件を守らせるとともに、 現実には勤労者保護の法律をよ 々と勤労の権利を行使できる今 あまんじて使用者に酷使されな 法によって勤労者の団結、団体 も保障できないところから、 結することによって、力の強いい。そこで力の弱い労働者が団 日になったのであるが、併し、 いう弱い立場から解放され、堂 交渉、団体行動の権利を認め保 認めなければ、真に勤労の権利 条件の改善を求めさせることを 使用者と対等関係にたち、 労働者は、昔のような薄給に 最低

重 点 目 推 進 細 道路交通の周知徹底 1. 歩行者の交通上の 1. 機関紙による啓発宣伝 義務 を行うこと 2. 車両等の新しい交通法 2. 改正法令研究会の開催 3. 雇用者等の義務 4. 道路の正しい使用 交通道徳の高揚1.互譲精神の涵養 1.就業中の運転者に酒を 2. 人命尊重観念の徹 底 すすめない運動を展開 すること 交通秩序の確立1.正しい歩行の励行1.常会の開催と回覧板に 2. 右側通行の励行 3. 正しい横断の励行 4. 安全運転の励行 2. 交通法令研究会座談会 5. 無資格運転の防止 6. 飲酒過労運転の防 7. 安全速度の遵守 3. 警察の交通指導員に協 8. 歩行者特に幼児、 児童の通行保護 9. 踏切における一時 停止の励行 10. 車両の完全整備 励行 11. 危険物の安全輸 送 交通環境の整備1.道路環境の整備 1. 道路上のじゃまものを

一培されていたが、

甘藍より収益が一みつば・せり・しそ・れたす等 一買人が集る。飯塚や直方にも安岡 菜としては、横野人参の周年栽培 ある。この市場には各都市から中 一が栽培されている。安岡の横野地 播種される。一農家年間二一三斗 区には農協の経営する青果市場が 八月下旬からは九条葱や横野葱が 葱出荷される。 品種は夏期の四十 八月までは暑さに強いユワツキ葱 葱が中買人の手によって出荷

運転者に対する労務1.過労を誘発するよ 管理の適正化促進

らないとある。

促進

除く 2. 児童遊戲場設置の 2. 街路上の塵箱の徹去と

家庭用塵箱ををつくる 3. 幼児、児童の遊戯場を つくること

うな業務運営の改善 2. 無資格運転又は故障車両の運転禁止 3. 身心の故障又欠陥のある場合の就業禁止

小限度の労働条件と、使用者の

に値する生活を営むに必要な最

法)を定めている。又特に児童 専横を制限する法律(労働基準

についてはこれを酷使してはな

条二項)とし、労働者が人たる

全国秋李交通安全運動が十月二十 り全国一斉に開催されました。 日間

5運転者に対する労務管理の適正

こいるのである。

を招き、無質力な者は人間とし 強食、優勝劣敗の状態 ておいたのでは、弱肉 ての生存を保障されないばかり

憲法の保障する労働権の乱用と

行動が目立つ。これは

他の勤労条件に関する基準は法 か、ひいては社会秩序を混乱さ 律でこれを定める」(第二十七 この危険性を排除し、労働者の 賃金、就業時間、休息、その 憲法は であって、そのためには勤労の ば望めないことを痛感する。 権利を正しく理解行使しなけれ 権は労働者自身が護るべきもの いわねばならない。労働者の人

人権を擁護するため、

せる原因ともなる。

及びその支局、或は市町村の人 自覚し、その様な場合は労働基 が安定する第一歩であることを 従事することこそ、私達の生活 過ごすことなく、これを明らか 或は疑問の点があればその仮見 職場において、労働条件に不審 権擁護委員に照会されることを 準照督署又は法務局人権擁護部 にして不安のない状態で労働に

く、法律で定める最低労働条件 は、どうしても労働者の力が弱 を定めても、使用者対労働者と

併し、いくら法律で労働条件

お勧めする。

いう個々の対立関係において

く理解していないがために、昔

て個人の自由意志を曲 ものが、時には暴力化 するに当り、平和的行 事件の被害者となって げさせる等、行過ぎた 動において交渉すべき において、労働者の団 父最近では、労働争議 いるのが実情である。 側権に対する人権侵犯 んでいる者が多く、労 まんじ酷使され、苦し 集団の威圧でもっ 行動権を行使

社 を 明 3

<

労働とは、人間が財貨を獲得

と続々と入って来た。嘉穂、田

一町村別人員の掌握やテキストの

不安をただよわせている。

宿泊料、米の徴収等で少々

県下で大体全農家数十六万戸とい ②福岡県農業の動きは

今後

名を対象としての講習会だけに

公

い当てられた修道館へはすでに数

の完全雇用への道が遠く潜在失業

稲作に於いては昭和三十年以来減 最後に経営に当って「三むの心」

の外国農産物の輸入に依る圧迫 の所得に対する過大投資

③農業生産の動きも 度合が非常に強っている。

努力を怠ってはならない。

への消費の伸展について、積極的

置がなされているところは割合い一ているが、形式的で適材適所の立一するための地下水的使命を果すべ

館に準じて各部に部長が配置され 分館の組織は整備されている。本

活動の場を提供し活動を助長育成

意図によって運営されている分館 の自主性が尊重されず、分館長の 公民館が熱心の余り社会教育団体

も分館指導者養成のための予算措

県下の市町村の公民館行事の中に

特に大きな問題として国内大企業

しつつあるが、これらも価格変く。と結ぶ。

退気味で園芸、畜産等が伸展をなでむだなく。

むらなく。むりな

一人を要している。

動が大きく必ずしも安定していな

次に川辺営農指導課長の講義あり

方は鍬鎌農業で主に手労働である

これは耕地面積の差が大きく、一

「農業基本問題と協同につがアメリカは殆んど機械力であ

久方ぶりの英彦山である。宿舎

実態に即応した手が打たれていな

営が肝要であろう。多くの優良な もって急がず、あせらず着実な運 なかろうか。役員の団結と熱意を

公民館は長い間の苦闘が実を結ん

民館に従属してしまっている。 館長傘下に入り社会教育団体が公 けたり育成されたりするため、分 団体が弱かったり、財政援助を受

胖させるための 講習会や研究会を

だ結果である。

して分館長意識を高める必要

④ 形式型分館

い分館長や役員に公民館教育を理

報

動を消化する態勢になっていな一みこえていかねばならない道では

であるのに反して地域の社会教育

分館の組織もととのい運営も活発

⑥統制したがる分館

に一骨折れる分館で もうすく啓蒙するの

ている分館である。

い。本館から刺戟されると線香花

が必要な分館である。

② 片手間型分館

まな姿を類別して

その必要性を感じてもいな

感じていない分館である。この種

分館活動の必要性が本館の指導啓

来から一歩も前進をみない分館で

要求も計画の中に生かされず、従

れ、部活動もまた部落民の必要や

③役員まかせ型の分館

### あなたの分館は ある。 来の機能は放任さ一役を迷惑がっている分館である。 あってもいままで い名ばかり分館で もたない。或は一 係もちゃんとつく みると次のような から目ざめていな の建物で公民館本一る積極的熱意もなく分館長という一の理解と協力が出来ないで苦労し って組織らしい組 分館の役員もあり ことになろう。 ① いねむり いねむり状態 この種の型もかなり多く新生活運 然し分館の発展過程として当然踏 型分館

の公会堂や青年宿|行きたいという部落の振興に対す一と犠牲を払ってもなかなか部落民一が低調であるため、地域の人々も 忙であろうが、何んとか打開して あきらめている。たしかに事務多 II の=実=態=

に分館運営に参加してない。この ため分館長はなみなみならぬ努力 うすく第三者的立場に立って批判 組織も行事も計画され分館が活動 している。然し地域住民の関心も

れ分館組織も行事も計画され分館 貰えたら事業をやる。分館員の負 が、予算が僅少で本館から経費が の中心である分館長や役員の意識 いう打算的な運営のしかた、分館

(5) 下請型分館

決だと考える。

るのでなく団体相互の連絡提携の 拠点でありたい。部落振興の原動 会教育団体の活動とが一体的に運 宮され、綜合的に成果をあげるこ 受持つ分野と責任とを自覚して専 分館役員が地域の人から支持され ⑦ 民主的創意型分館

る。

自主的参加のもとに運営されてい 理想として、着々実績をあげてい 住民の公民館に対する理解もあり 運営も活動も部落の課題と

は相互の立場を理解することが先 たり対立したりして勢力争いをし とは分館運営の大事なとてろと思 ているところもみられるが、これ る。





15 日 14 13 日

日

20

日

西古門

これもお互過去がそうさせた美点

そのために今後野焼毎に再び犠牲

いと存じます。

21 日 日

鶴ケ岡 後谷 前村、犬星 八幡町、畑、東古門

活躍をしていることでしょう。 は現在町民の一人として充分なる

## の農業経営「農協青 年 部幹部講習会に 参加 して

楽観を許さず、之れに対しては個 農業は曲り角に来たという言葉は 十四名分の食糧を作り出している

以上農村を取巻く諸状勢は決して

いて

方城農協青 年部 長 高 津

順

の和に依って結ばれねばならぬ。

第三に資本の裏付け。 なければならない。 ①経済上から見た農村は他 村をめぐる状勢について」 較初県青協の野村先生から 「農 しり愈々正午より講義開始 低雑し済んだ所から早目の中食を

正業性の欠如がその主たるもの 大し鋏状価格差は加速度 産業に比し所得較差が拡 が増え、一町から二町歩の中堅農 家は僅かに一万三千戸である。 家が次第に減少しつつある。農業 われている。最近三力年間に農家 所得五万円以下の農家が六万七千 経営規模別では五反以下の零細農 戸数は全体で八、〇〇〇戸減った。 も、この動向を察知し唯作れば良 二〇〇軒以上もあるに農業では一 なく、従来の澱粉農業から蛋白農 々の力では容易にその壁は破れず、第一次産業の農林業が第二次、第 のに、我が国では一、九人で一人 って来つつある。生産者たる農民 と国民の食生活の方向も次第に変 業へ、煮たるものから生のものへ 協同の力によって打破する以外に いという農業から根本的に出直し におかれている。鉱工業の生産が て来たにも拘らず所得水準は下位 所にその根因はある。 三次産業つにいて行けなくなった 三〇

「芸〇

だにとどまっている。

その原 農業形態そのものは非常に進歩し産は、経営規模の狭少。資本の不 以上の不合理な面を改善し根本的 立ち直りは出来ない。今後十年 は自分であるから〇、九人の食糧 適正利用。技術経営能力の低位。 しかまかなっていない。この低生

昭和35年11月

的に増加しつつある。

素所得の基因は

の政治的にも農林予算の減少

研究面の不足

資本の零細化によるもの

性が低い。アメリカでは米一石の しないのに、日本では九人から十 生産は〇、五人(五時間)しか要 業の共同化。協業化を押し進めな 之れが為には今後の方向として農 減。青果物二割增。畜産三倍増。 ければならない。 たらなかなか共同経営成功は難し め、その一角から遂に崩れた。 故に一家総ぐるみの協力がなかっ

共同経営の方向には ②資本共同経営、資本のみ出し合 ③完全共同経営、全部完全に出し ①部分共同経営、養豚、養鶏、 って、利益配当方式 農、園芸等 いて多いようだ。 さか疲労を覚え約四分の一は睡魔 正午から五時間連続の講義にいさ のとりことなる。特に田川勢に於

共同経営はいうは易く実行はなか 先ず人間関係の改造が第一で、人 合って一つにする経営方式 すでに共同経営に踏み切った数例 著に現れ嘉穂代表の活溌な発表討 夕食後座談会に於いてその差は顕 を聴き田川に一例もなきは全くじ 議には全く頭が下った。

る。県下で共同化で失敗した所は 次にグループの中に高度の技術が 立案し戸主のみで話し合って始 以上三つは共同化の三原則であ 科委員長をおおせつかり閉口し 翌日の分科会で全く経験もなき分 れることを確信づけられた。 て、遠からず共同化の芽の培くま 第一位を占めている現状から見 てくれたものは、日本農業新聞で あると聴き方城もその普及率郡下 桂川代表のこの共同経営を示向し も常に見識を新らたにし時代の変 かりでなく育ち行く子供のために それは経営面のみプラスになるば うな機会を敬遠しがちだが、多少 この講習会を通じて強く感じたこ れなかった故か本当に教えられる 遷に残されぬ心掛が必要ではある 度が望ましいのではなかろうか。 いう機会には、出席し研究する態 の家業は犠牲にしても努めてこう とは青壮年層、特に壮年がこのよ 所が大きかった。

> 香 典返 U 寄 附

課長殿の香典返しとして当町社会事業費に 金一封が寄附されました。 今度見六中野ハッノ氏より故中野実元厚生 この金は今後民生委員協議会費として有効

謹みて、 に使用させて頂きます。 故中野実殿の御冥福を御祈り致

方城町長 文

昭和三十五年九月三日

倉 石

H 思

村

角

治

変る気も致します。それが当然で

に浮き出して当時の惨事が恐怖に

が感じられます。最近は特に脳裡

しょう。私も当時野焼の責任者の

一人であったのです。

|已に方城に住み方城の土になる老||い出を永久に残したいと思いまし||ました。突然な語り草でありますが、私も||朽の一人です。 せめて 老後の思|て、在り せめて老後の思一て、在りし日の出来事を書いて見

現在方城も村が町になり、また町

所有の五十町歩有余を焼いてしま

他村採銅所まで飛火し小笠原医院

い、これの謝罪に何回も足を運ん

多くの犠牲者を出し、あまつさえ

服飾の生活改善に最も必要な和服の近代化簡素化を目的とした 帯の裁ち方、結び方茶羽織の裁ち方講習を本町地区婦人学級に 地区婦人学級 開設さる が村に戻るような人口に減ってき

> せぬと言って、過失を許してくれ だのです。初めは金銭等では承知

をしたのも昔の事です。今はそんな必要はありません。名古屋 於て実施致しました。長い帯を体にグルグル巻いて窮屈な思い 帯を短くしたわずかな小布で出来る帯です。 地区婦· 人学級日程 久六 新町 上宝珠 宝珠、草場 迫 ず美るわしき方城町となる事でし一ろ永久に良き示標として生かした と人の和の結合の現われです。必一す。今後村のため犬死にならぬよ 現町長や部落民一同も町のため協 政に深い関心を持って来ました。 なりませぬ。茲に於て代々の町村 喜ぶ可きですが、衰微の状態は何 ることは誠に慶賀の至りです。こ 村人は農業の前途をも考慮せねば んとなし寂しいものです。吾等農 ました。土地と人の繁栄はお互い のようにして町の発展は総てが人 長部落代表達、または全町民も町 将来のため植林に努力してい一た。小笠原氏の理解によって事件

理として四名にて事にあたりまし

たのです。 私等は 当時の村長代 幅を呈してやっと難問題を解決し 田の竹田先生の青緑山水大幅の一 私の家宝として愛玩していた、日 ませんでした。最後の手段として

当時惨死をされた若き男女の方で は解決しましたが、残念なことは 月11日

12

対照して反省以て良き行蹟を日常 陰からみていることでしょう。若 の野焼の惨事の一端であります。 今を去る昭和十八年二月二十二日 行政の上にとりあげて行かなけれ です。吾等は常に過去と現在とを ばなりません。これより本論に入 しも当時の惨禍がなかったら彼等 土から何か言わんとして、草場の れています。残念の至りでありま 今は遠い昔の事に一般から忘れら 当時の犠牲者の若き人々は冥 因みに当時の犠牲者の姓名を列記 者を出さぬように努めることが彼 犧牲者方城町伊方 等の犠牲に報ゆる所以かとも存じ して参考に供す。 "

これを思うとただ老の眼に熱い物 中原 当時 朝部武夫 倉石よし子 朝部呈次 努力者 高崎 部落長 花石重次郎 村長 桑野清次郎 宮崎 角次 佃 清五郎 二十九才 十九才